令和７年４月１日

令和７年度　東京都立大島高等学校（全日制課程）学校経営計画

東京都立大島高等学校長
友常　裕

１　目指す学校

本校は昭和19年東京都大島六ケ村組合大島農林学校として創立され令和5年度創立80周年の節目を迎えた。次の90周年に向け、伝統を受け継ぎながら将来の大島を支える人材を育成する学校を目指す。

（1）スクール・ミッション

「綱領五訓に基づき、郷土を敬愛し、自己の尊厳を覚り、真理を究明し、誠実をもって事を達成し、常に健康かつ明朗で勤労を貴ぶ人材を育成する」を教育目標とし、基礎学力の定着と発展、海外交流、専門学科の実習や地域との連携といった教育活動を通じて、国内外に目を向け主体的に学び続ける人間性・社会性の豊かな生徒を育成する。

（2）教育目標

ア　誠実　　誠実で豊かな人間性をもつ知・徳・体の調和のとれた人間を育成する。
イ　敬愛　　郷土を愛し、誇りをもってその良さを世界に発信できる人間を育成する。
ウ　勇気　　勇気と行動力をもって困難に立ち向かうことのできる逞しい人間を育成する。
エ　自尊　　自己を信じ何事にも前向きに取り組むことのできる人間を育成する。
オ　自主　　自ら考え判断し行動できる自主性と創造力をもち、自立及び自律できる人間を育成する。

（3）スクール・ポリシー

ア　グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

本校では卒業までにこのような力を育成する。

（ア）探究力

主体的・対話的で深い学びにより思考力を鍛え自己の課題に正面から取り組む力を育成する。

（イ）コミュニケーション力

相手に対する理解や共感を持ったうえで、自分の考えを自分の言葉で相手に伝える力を身につける。

（ウ）国際社会及び地域社会への貢献力

地域を拠点としてグローバルな視野で考え、郷土「大島」と世界の未来に貢献する人材を育成する。

イ　カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

グラデュエーション・ポリシーの三観点の達成に向けて、「探究心」、「コミュニケーション力」、「社会貢献力」の育成を軸におき、「基礎学力」、「思考力」、「公共心」、「表現力」、「協働心」、「奉仕の精神」及び「国際理解」の７分野について、育成のための組織的な教育活動を展開する。具体的に、教科の横断化を図った授業、学級経営、キャリア教育・進路指導、特別活動等に関する教育活動を体系的かつ横断的に編成し、地域の人材活用や関係機関、企業との連携を図り、ＩＣＴ機器を積極的に活用した、講義、演習、実習等を適切に組合せた教育活動を行う。

（ア）基礎学力の充実を土台に据え、思考力・判断力・表現力と主体的に学ぶ力を高め、協働的な学びへ展開する「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図る「令和の日本型学校教育」を実践する。

（イ）体力を向上と、目標に向かって未来に挑戦することで心身を鍛え、困難にくじけない不屈の精神を養う道徳教育並びに特別活動等を展開する。

（ウ）生徒の自治活動を活発にし、関係機関と連携を図り、公共心や奉仕の精神をもって地域に貢献しようとする自主自立の精神を育む指導を行う。

（エ）国際理解の深化により広い視野をもたせるなど、キャリア育成を充実させることにより、進路実績の向上を図る進路指導を推進する。

（オ）農業の基本である植物の栽培、動物の飼育、新しい時代の学びであるスマート農業等の実践を通して幅広い農業の知識と技術を習得する。(農林科)

（カ）地域や専門の講師と連携し、衣食住･保育･福祉と幅広く専門的な学習を展開する。（家政科）

ウ　アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

本校は令和５年度に創立80年を迎えた伝統校である。本校のグラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを理解し、島しょの恵まれた自然と郷土文化、広大な敷地、教育に積極的な地域社会などの環境を生かした活動について興味をもち、意欲的に活動のできる生徒を求める。

（ア）社会の現状を分析し、自ら考え、志をもって主体的に行動し、生涯にわたり意欲を持って学び続けることにより、困難な状況でも打開しながら生き抜くことができる生徒

（イ）自らのよって立つところを自覚し、国内外に目を向け、必要な情報を適切に集めることができ、リーダーシップをとって他者と協働しながら行動できる生徒

（ウ）郷土学習、学級活動、生徒会活動、委員会活動、部活動、ボランティア活動などに積極的に取り組み、自分を磨こうとする強い意志をもった生徒

（エ）農業の各分野に対する興味・関心が高く、実験・実習に意欲的に取り組むことができる生徒（農林科）

（オ）衣食住・保育・福祉の家庭生活に興味・関心をもち自ら進んで課題を解決しようとする生徒（家政科）

２　中期的目標と方策

（１）中期的目標

ア　主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、課題解決型学習（ＰＢＬ）を組み入れた学習指導の充実を図り、多様な進路実現に向けて基礎・基本の定着及び思考力・判断力・表現力の向上を図る。【学習探究】

イ　道徳教育及びキャリア教育の充実を図り、人間としての在り方生き方について考えさせるとともに、志をもって人生を主体的に開拓しようとする意志を持つことができる効果的な指導と実践を行う。【進路探究】

ウ　人権尊重の精神を重視した教育を実践し、しなやかで折れない心（レジリエンス）をもって、自他の生命を尊重する心を育み、心身ともに健康な生徒を育成する安全・安心な学校づくりを進めることにより、いじめ・暴力行為・体罰を根絶する。【五訓探究】

エ　特別な支援を必要とする生徒に、個々に応じた対応を行える組織的支援体制の充実を図る。【特別支援】

オ　一人一人の生徒に対して個に応じた体力の向上を図る教育活動を計画的に設定し、組織的に取組む。【体力向上】

カ　自然と共存する地域に根ざした防災教育を推進し、地域との連携を深める社会貢献・奉仕活動を実践することにより、生徒の主体的な判断と行動を支援する教育活動を進める。【防災教育・社会貢献】

キ　海外の学校等との交流活動を含めて国際理解教育を推進することにより国際感覚の醸成を図り、ＥＳＤを展開することにより、グローカルな視点で島の発展を担うことのできる人材を育成する。【地球人探究】

ク　効率的な学校運営を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。

（２）中期的目標を達成するための方策

ア　これまでの学力スタンダードの達成による基礎学力の定着を礎として、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業を推進するとともに、探究活動をとおした課題解決型学習等を取入れて思考力・判断力・表現力の向上を目指す。ＳＤＧｓ達成を目標とするＥＳＤの展開により、学習と体験を自己の生活に活用できるようにする。特に読書活動を推進し、図書館の活用を積極的に推進する。（学習指導・言語活動）

イ　将来を見据えたキャリア教育の充実により、生徒に高い進路目標をたてさせる。教育活動全体を通じて実施する道徳教育及びキャリア教育の充実に積極的に取組む。多様な進路実現のため、進路指導部を推進役として３年間を見とおした計画的な進路指導と個別指導、講習・補習の実施を進める。（進路・キャリア教育）

ウ　いじめ対策委員会、サポートチーム等の機能を活用し、いじめ・暴力行為・体罰０にする体制を充実させる。安全に関わる体験的な行事や活動をとおし、生命を尊重の精神を育む。（人権尊重、生活指導）

エ　中学校の通級学級や特別支援学級担任等と情報を共有し、関係機関との積極的な連携関係を形成することにより、効果的かつ系統的指導ができる特別支援教育を組織的に推進する。（特別支援教育）

オ　生徒の体力向上のために体育授業、体育的行事、部活動等の教育活動を計画的に設定し、取組の充実を図る。（健康、TOKYO ACTIVE PLAN for students ）

カ　大島の自然を理解するための教育を推進するなかで、自然の脅威に対する啓発から防災教育に関連付ける。自助・共助・公助に関わる防災リテラシーを定着させる防災訓練を地域と連携して推進する。（防災教育）

キ　国際優秀つばき園に認定された本校椿園におけるガイドやジオパーク活動などと連携した社会貢献活動・奉仕活動及び広報活動を推進する。海外の学校との交流を含む体験学習や多様な外部講師による講演会等の

実施により国内外の多様性を理解し、豊かな国際感覚と探究心を培う。（国際理解並びに探究教育）

ク　学校組織の不断の見直しと改善及び意識改革により、教職員の働く環境を整備し、生徒の教育環境の向上を目指す。（ライフ・ワーク・バランス）

３　今年度の取組目標と方策

（１）教育活動の目標と方策

ア　『学習指導』　個別最適な学びの構築をとおして基礎学力の定着と進路に応じた発展的な学力向上を図る。

（ア）各教科は年間授業計画に達成目標を明確に示すとともに、生徒の義務教育課程での学習履歴を把握し、思考力・判断力・表現力を問う定期考査問題等の作成と工夫を行い、考査等結果及び生徒による授業評価の結果を踏まえて授業改善を行うことで、応用力の充実から基礎学力の形成までの幅広い学習要求に対応する。（授業改善）

（イ）アクティブ・ラーニング並びにユニバーサルデザインの視点に立った学習の充実を図り、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」を高める授業及び人間関係を重視した授業の実践を推進する。ＳＤＧｓ等を題材とした課題解決学習や協働的な学びの推進により、探究力や表現力を向上させる教育実践を推進する。（学習指導要領）

（ウ）５０分間の授業の始まりから終わりまで、生徒の集中力の緩急を意識して学習内容を定着させるための授業を展開する。（授業の在り方）

（エ）年間授業計画の評価計画に基づき、観点別評価を適切に実施する。（評価）

（オ）教員相互の授業見学、大島町並びに他校での参観、指導教諭の模範授業等(オンライン含む)を年間２回以上実施し、他者の授業の優れた点を参考に自己の授業を客観視することで、授業力の向上を図る。（研鑽）

（カ）教室等の授業環境と機能の充実を図るとともに、ＩＣＴ機器の効果的な活用を推進する。家庭におけるオンラインの学習活動と対面授業を組み合わせ、生徒の学習内容のより深い定着を図る。

（キ）１人１台端末の導入に対応し効果的に活用することで、個別最適かつ協働的な学びの充実を実現する。

（ク）学習状況調査並びに模擬試験などから生徒の学習時間等を把握し、振り返りを中心とした自主学習の支援と取組の評価を行うとともに、本校の定める学力の基礎・基本の定着を目標に、確認テストで基礎学力の底上げを図り、知識の確保と定着に取り組む。（生徒の基礎学力・学習意欲向上）

（ケ）探究に向かう姿勢を育むため、特に読書活動などにより自分の知らない世界に触れるような学習活動を重視し、協議、発表の能力向上を推進する。科目目標を設定し、技能検定や資格取得を推進し、専門分野での実力と自信を持たせることにより、社会人として歩んでいくための自信と自己効力感を獲得させる。

（コ）生徒の学習意欲に応えるために放課後・長期休業日中・週休日などの自習環境を整備する。

イ　『進路指導』　生徒の自己理解を進め、希望する進路実現を支援する。

（ア）多様な進路に応じた、３年間を見とおした計画的かつ組織的なキャリア教育を展開する。進路指導部が推進役となり学年担任や教科担当など全教員が、生徒に対して高い目標を持たせて挑戦させる指導を徹底することにより、生徒の第一希望の進路実現を図る。（組織的運営）

（イ）生徒の学力の定期的な把握や進路指導部・学年の会議等を通じて生徒一人一人の能力・適性を把握し、三者面談の実施をとおして保護者との連携を図りながら、希望する進路実現に向けて指導・相談を行う。（家庭との連携）

（ウ）進路選択に向けた面接指導や講演会を実施し、生徒の進路意識啓発に努める。また、進路実現を促進する取組みとして就業体験、資格取得や各種検定試験に積極的に取組ませる指導を行う。（生徒の意識啓発）

（エ）キャリア教育全体計画に基づき、学校全体で生徒の勤労観や職業観を育成して、多様な進路実現を目指す。（就業に向けた取組）

（オ）平日や週休日及び長期休業日中の補習・講習の計画と実施は、進路指導部と学年が連携をとり、組織的に行う。（進路実現のための学力向上）

（カ）大学入学共通テスト受験者を増加させるために共通テストの過去問題（３年間分）を、生徒が自由に解答し提出できる環境を整備し、即日採点し返却するシステムを充実させる。大学入試の変更点などについて、情報収集に努め、得られた情報は全教職員で共有する。（大学入試）

（キ）進路情報の提供は生徒だけではなく、保護者にも提供する。

ウ　『生活指導』　生徒との人間関係づくりを基本に体罰０を大切にした人権尊重、健全育成の指導体制を推

進する。

（ア）時間厳守、服装、身だしなみ、交通マナー、挨拶、美化等について率先垂範し、規範意識の向上を図る。道徳的意識の深化を目指し、地域と連携した指導を模索する。（道徳的指導）

（イ）心と体の健康への取組や生命尊重教育の系統的な実践を図る。いじめを許さない集団づくりと、「SOS の出し方に関する教育」「人権教育」を行い、他者との共生や生命尊重と向き合う姿勢を育てる。（生命尊重）

（ウ）自己指導力を育む指導をさらに徹底し、学習に主軸をおきながら、部活動、学校行事との両立を図ることができるよう指導する。失敗しても、次の段階に進めるような「折れない心」を持たせることにより、自己肯定感を涵養する教育活動を展開する。（健全育成）

（エ）保護者との三者面談や学級担任・副担任との個別面談等で生徒理解を深めるとともに、外部関係諸機関と連携を図ることにより、問題行動や中途退学生徒を出さない指導を徹底する。（学校への定着）

エ　『専門教育』　農業や家政が生活の基盤であるという自覚をもち、主体的に学ぶ姿勢を育成する。

（ア）実習や地域並びに企業との連携などの体験により得られる技術や知識を、実生活や今後の進路にどのように活かしていくことができるかについて、主体的に考える姿勢を育む。

（イ）生活の礎である産業であるという自覚を持つとともに、視野を世界に広げグローカルな視点で探究を継続できる態度を育成する。

（ウ）衣食住や環境に対して深く思いを致し、課題を発見し、解決することができる能力を養う。

（エ）「６次産業化」「スマート農業」「ＧＡＰ教育」「ＨＡＣＣＰ教育」「地域連携・企業連携」を学習内容に組み入れ最先端農業を実践的に学ばせる。

オ　『特別活動、部活動、社会貢献』　学校行事、部活動、社会貢献に積極的に参加する態度を育てる。

（ア）日常の授業や関連する学校行事等を通じて、学校や地域への所属感を醸成する。

（イ）学校行事や部活動の報告、壮行の場等を設け、一体感や連帯感を持ち、帰属意識を向上させる取組を継続・発展させる。

（ウ）ホームルーム活動や学校行事、委員会活動をとおし、生徒が主体的に集団で取り組む場を設定し、チームで協働できる能力を育成する。

（エ）生徒会活動や学校行事の活性化、学校祭の充実、地域行事への参加を促し、社会貢献を促進する。

（オ）部活動では達成目標を設定させ、その実現に向けての年間指導計画に基づいた活動を積極的に支援する。

（カ）部活動加入率９０％を目標とし部活動指導員、外部指導員と連携し、公式競技、発表会等の機会により可能性を伸ばし、能力向上に努める。また、体罰０を継承し、豊かな人間関係を基に保護者と生徒との信頼関係構築と健全な育成に努める。

（キ）ハワイ島ヒロ高等学校との姉妹校の締結並びに学校交流を継続・発展させ、主体的活動による協働作業によって、両島や両島に住む人々の抱える課題の解決に向けての提言等を発信できるようにする。

カ　『健康、安全』　教育相談体制等を整備し、生徒の心身の悩みに積極的に応じる。安全の確保と事故防止の徹底

（ア）古き建物を大切に扱い校内美化に努める。職員室は生徒の手本となるよう率先垂範、整理整頓に努める。

（イ）体育授業、体力測定、マラソン大会、球技大会、部活動等を計画的に実施し、生徒の体力向上を図る。

（ウ）健康と健全な食生活の実現、食文化の継承と卒業後の自立支援のために食育を推進する。

（エ）特別支援の組織的な校内体制を充実させ、個別指導、個別相談を行うなど特別な支援を必要とする生徒に対する正しい理解を培い、適切な特別支援の実施を推進する。

（オ）個々に必要な支援を展開するために、気づきの共有、信頼関係の構築、支援のコーディネート、専門的相談を重視する。

（カ）避難訓練やセーフティ教室等を実施し、災害や事故に遭遇した際の危機対応能力や危機管理能力を育成する。また、大震災及び三原山の噴火に備え関係機関と連携する。本校独自の防災マニュアルを毎年見直し、危機管理を徹底する。

（キ）防災訓練の充実により豪雨や台風のシーズンにおける避難所対応に万全を期す。また、施設の老朽化に対応し、改築等、施設整備を計画的に進める。

キ　『広報・募集活動』　保護者や地域に積極的に教育活動を公開し、評価をあおぐ。

（ア）学校公開や学校説明会、授業公開、出前授業等に教員が積極的に参加し、本校の教育を広報するととも

に、組織的に取り組む体制を確立させ、統一した丁寧な対応を行う。

（イ）ホームページ、X(ツイッター)等SNS、広報「おおしま」を活用し、本校の長所や特徴的な取組を都民に発信していく。加えて島内外中学生の目線に合わせた学校案内等の内容充実を図る。

（ウ）「国際優秀つばき園」を活用した大島町や地域、海外との連携に積極的に参加し、町の活性化を推進する。

（エ）学力向上推進に向けた交流授業、出前授業を実施し、大島町教育研究会への参加を推進する。

（オ）学校理解の促進を図るために教育財産や教育機能を開放（学校行事、部活動等の教育活動優先）して地域スポーツ、文化クラブを支援すると同時に生徒の参加を促す。

（カ）地域の学校として、生徒の活動をとおして地域の景観美化推進、地域貢献活動を積極的に行う。

（キ）令和８年実施の島外からの中学生受入事業の実現に向け、大島町と協力して準備・広報を行う。

ク　『学校運営』　不易と流行を組入れた学校運営・学校改善を進める。

（ア）ジオパーク活動と連動させて郷土の自然や文化等を教育活動の中に取り入れ、ＥＳＤの展開など特色ある教育活動をとおして地域社会に貢献する人材を育成する。

（イ）国際交流に力を入れる学校として教育活動を推進するとともに、校内施設の英語銘板の整備を図る。

（ウ）避難者用駐車場の運営・管理と老朽化の進む校舎の改築、実習設備の改修・整備を推進する。

（エ）特別支援の組織体制の構築を進め、通級による指導を含めた特別な支援を必要とする生徒に対して個別支援、個別相談を、全校を挙げて組織的、計画的に取り組む。

（オ）大島町の学力向上プロジェクトへの参画、教科ごとの授業研修、研究会への参加を推進する。

（カ）統合型校務支援システム、入学選抜におけるマークシート方式並びにデジタル採点システムの導入、一人一台端末導入に伴い、校務の効率化と情報セキュリテイの強化を図るとともにTOKYOスマート･スクール･プロジェクトにおけるデジタル技術を活用した教育の推進と個人情報の管理を徹底する。

（カ）年３回服務事故防止研修を実施し、服務事故０件と体罰の根絶に努める。

（キ）自律経営予算を有効かつ適正に執行する。私費会計における計画・徴収・執行・清算の適正化を図る。

（ク）学校経営計画、予算編成方針に基づいた自律経営推進予算の管理と執行をとおして、教育効果が最大限に効果的に発揮できるように努めさせることにより、経営参画の意識を高揚させる。経営参画ガイドラインにより経営企画室の現状を把握すると共に、経営参画の目標を設定し、経営企画室業務の効率化を図る。

（ケ）教員が常に研鑽できる環境を整え、教科・科目の学習活動、特別活動、部活動、教育相談等、様々な専門性をそれぞれに伸ばし、教えあえる環境を構築する。

（コ）教え育てることに喜びを感じることができるような環境を整え、教員としての実力をさらに伸ばすことができる職場を全組織員で築き上げる。

（サ）令和８年度実施予定の島外からの中学生受入を視野に入れ、大島町と連携するとともに島内出身生徒に新たな仲間との学びの機会を提供し、島外出身生徒に島外にはない教育環境で学ぶ機会を創出することにより、相乗的な成長を目指す教育活動を展開する。

（シ）閉庁日や定時退庁日の設定、夏季休暇消化などライフ･ワーク･バランスを踏まえた働き方改革を進める。

（２）　本年度の数値目標

ア「入学満足度」	肯定評価８５％以上	（令和６年度実績	生徒９７％・保護者８１％）
イ「学力向上取組に対する肯定率」	肯定評価８５％以上	（令和６年度実績	生徒７５％・保護者７０％）
ウ　希望進路決定率	１００％	（令和６年度実績	１００％）
国公立大現役合格	２名	（令和６年度実績	２名）
オ　講習・補習の充実（受験・補習・他）	６０講座、５００時間以上開設	（令和６年度実績	８０講座６００時間）
カ　資格検定合格者数	全生徒延べ８０％以上	（令和６年度実績	９２％）
２級以上の上級資格受験	１０名	（令和６年度実績	７名）
キ　校内外研修（授業・進路・保健・特別支援等）	８回以上	（令和６年度実績	１３回）
ク　出席状況に課題のある生徒の割合	２％以内	（令和６年度実績	６％）
ケ　部活動加入率	９０％	（令和６年度実績	９５％）
コ　出前・公開・交流（授業・講座等）事業	４０回以上	（令和６年度実績	５９回）
サ　国際理解、探究、進路など多様な外部講師による講演行事	３回以上	（令和６年度実績	６回）